

F-35Bの岩国基地への配備について(最終取りまとめ)

(平成 28 年 11 月 山口県総務部岩国基地対策室)

F-35Bの岩国基地への配備について、県の基地問題に対する基本姿勢に照らし、基地周辺住民の生活環境への影響を判断するため、国に対し、騒音予測コンターの作成を要請するとともに、地元市町と連携して17項目の疑問点を照会し、国からの回答等を航空機騒音や安全性などの観点から「中間取りまとめ(9月)」を整理したところです。

その後、岩国市による米国ユマ基地の視察が行われ、そこで得られた情報を追加し、最終取りまとめとして整理しました。

1 これまでの経緯

平成 25 年 10 月 3 日	「日米安全保障協議委員会」(2プラス2)において、米国外では初の前方配備として、米海兵隊F-35Bを2017年に日本に配備することを確認
平成 28 年 8 月 22 日	外務大臣政務官・防衛大臣政務官が来庁し、F-35Bの岩国基地への配備について説明
平成 28 年 8 月 25 日	県・岩国市が中国四国防衛局に対して文書照会(17項目)
平成 28 年 9 月 23 日	国から文書回答及び騒音予測コンターの提示
平成 28 年 9 月 27 日	岩国市議会全員協議会の開催(1回目)
平成 28 年 9 月 30 日	F-35Bの岩国基地への配備について(中間取りまとめ)公表
平成 28 年 10 月 23 日 ～ 10 月 26 日	岩国市が米国ユマ基地を視察
平成 28 年 10 月 31 日	岩国市が米国ユマ基地視察の状況を記者会見で報告
平成 28 年 10 月 31 日	和木町議会全員協議会の開催
平成 28 年 11 月 2 日	岩国市議会全員協議会の開催(2回目)
平成 28 年 11 月 4 日	周防大島町議会全員協議会の開催

2 配備計画の概要(国からの説明(8月22日))

- 2017年1月、現在岩国飛行場に配備されているFA-18ホーネット3部隊のうち、1部隊12機を10機のF-35Bに機種更新し、その後同年8月、AV-8Bハリヤー部隊8機を6機のF-35Bに機種更新する。

- 機種更新の対象となる各現行機種は、F-35Bの到着時期及び米軍の部隊交代計画を踏まえ、日本国外に移駐する予定。
- F-35Bの配備に伴い、約460名の軍人及び家族が岩国飛行場へ移動する予定。一方で、現行機の日本国外への移駐に伴い、約330名が減少する予定。
- F-35BとFA-18ホーネットの騒音を比較すると、離陸時は、約2デシベルF-35Bの方が大きくなるが、着陸時は、約11デシベルF-35Bの方が小さくなる。
- 岩国飛行場に配備されている航空機の機数は、現在より4機減少することになり、飛行回数も減少するものと考えている。
- 岩国飛行場における航空機の標準的な飛行経路では、航空機は離陸後、市街地上空を避けて海側へ旋回することから、海側への影響はあるものの、市街地側への影響は大きくないと考えている。

3 国への照会に対する回答等

(1) 全般

ア 任務や役割について

岩国基地配備後のF-35Bの任務や役割は何か。

- 我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、在日米軍においては、緊急事態に迅速かつ機動的に対応できる態勢が平時からとられており、このような在日米軍のプレゼンスは米国が有する核戦力や通常戦力と相まって、抑止力として機能しているものと考えています。
- 今回のF-35Bの我が国への配備は、現行機であるFA-18ホーネット、AV-8Bハリアーとの機種更新ですが、米国のアジア太平洋地域重視政策（リバランス政策）の一環であり、日米同盟に対する米国のコミットメントを示すものです。
- また、現下の安全保障環境において、最も現代的かつ高度な能力を有するF-35Bが我が国に配備されることは、日米同盟の抑止力を強化し、日本及びアジア太平洋地域の安全に寄与するものであり、F-35Bはこのような役割の一翼を担っていくものと考えています。

イ 米軍再編との関係について

F-35Bの岩国基地配備は、米軍再編の一環として行われるものなのか。

- F-35Bの岩国飛行場への配備は、米軍再編の一環として行われるものではなく、米国政府のリバランス政策の下、現在同飛行場に配備されている現行機種の更新として行われるものです。

ウ 配備状況について

岩国基地（米軍・海自）における航空機の配備機数の状況はどのようになるのか。

※現状とF-35Bへの機種変更後

- 現在、岩国飛行場には、FA-18ホーネット、AV-8Bハリアー、空中給油機KC-130等の米海兵隊の航空機約60機に、EP-3、UP-3、OP-3、U-36A等の海上自衛隊の航空機約40機を合わせた約100機の航空機が配備されていると承知しています。
- 米軍の部隊交代計画により、全体配備機数に変動はあるものの、これまでの米側からの説明によれば、F-35Bが岩国飛行場へ16機配備される一方、FA-18ホーネット12機及びAV-8Bハリアー8機が日本国外へ移駐するため、同飛行場に配備される航空機の機数は、現行より4機減少することとなります。

(2) 騒音

ア 騒音の影響について

現状及びF-35B配備後の状況を航空機騒音予測コンターで示すこと。

- 航空機騒音予測コンターについては、別添のとおり。

- F-35B配備の前後における航空機騒音予測コンターを比較したところ、海側では、一部大きくなる部分もありましたが、陸上部分において、大きな変化は認められず、今回のF-35Bの岩国飛行場への配備により、航空機騒音状況はほとんど変化がないものと考えております。
- 海上部分の70Wが拡大している理由としては、F-35Bの離陸時の騒音値が現行機のFA-18ホーネットやAV-8Bハリアーより大きいことが主な要因であると考えられます。
- 岩国飛行場周辺の皆様が安心して安全に暮らせる環境を確保することは、防衛省としても、極めて重要であると認識しており、F-35Bの配備に伴う騒音対策についても、地元の御要望を踏まえ、これまでと同様に、周辺環境整備法等に基づき、適切に対応してまいります。

【参考】 県及び市の航空機騒音調査地点における騒音予測コンター上のW値

区分	測定地点	現 状	配 備 後	※ 環境基準
山口県	岩国市旭会館 (岩国市旭町2-12-27)	75	75	75
	岩国市車町第一街区公園 (岩国市車町3-10)	73	73	75
	岩国市門前供用会館 (岩国市門前町1-7-18)	67	67	70
	岩国市立由宇小学校 (岩国市由宇町中央2-10-1)	63	63	75
岩国市	民家 (岩国市川口町1)	75	75	75
	岩国市地方卸売市場 (岩国市尾津町5-11-1)	73	73	75
	岩国市由宇浄化センター (岩国市由宇町港3-1-26)	70	70	75
	岩国市神東農村婦人の家 (岩国市由宇町神東451-5)	65	64	—
	民家 (岩国市由宇町大畑)	62	62	—

※ 環境基準は、平成25年4月1日からLdenに改正されているが、本表では、W値で示している。

イ 騒音予測コンターについて①

騒音予測コンターの基準となる現状をどのように把握するのか。

※平成18年の艦載機移駐の計画の際に示した沖合移設後の予測と相違ないか。

- 航空機騒音予測コンターについては、岩国飛行場における第一種区域（最終告示：平成4年3月）の基礎となった騒音度調査（以下「騒音度調査」という。）のデータを基に、現在、岩国飛行場で運用されている配備機数や機種を考慮の上作成しました。
- なお、平成18年当時にお示した環境アセス調査のコンターと比べると、普天間飛行場から岩国飛行場への空中給油機KC-130の移駐が完了していることや米海兵隊ヘリCH-53Dが岩国から米本国へ移駐済であること、更には、海上自衛隊の岩国基地残留などによる配備機種や機数の変更について、今回作成した現在の航空機騒音予測コンターに反映しています。

ウ 騒音予測コンターについて②

騒音予測コンターはどのような条件（①航空機騒音のデータ、②飛行経路データ、③1日の標準的な飛行回数）を基に作成するのか。

※短距離離陸や垂直着陸の運用も反映させているのか。

- F-35Bの配備に伴う航空機騒音予測コンターの作成に当たり、F-35Bの騒音基礎データは米側から提供されたものを使用しました。
- また、F-35Bは、米側から機種更新の対象となる現行機（FA-18ホーネット及びAV-8Bハリアー）が実施している訓練内容とほぼ同様になる旨説明を受けていますので、標準飛行経路は平成18年当時に作成した空母艦載機移駐後の航空機騒音予測コンターにおける現行機と同じものとし、標準飛行回数は騒音度調査のデータを基に配備機数の変更を考慮しました。
- なお、F-35Bの短距離離陸や垂直着陸については、同じ離着陸が可能なAV-8Bハリアーの騒音度調査における飛行状況を踏まえ、航空機騒音予測コンターに反映しています。

エ 騒音の状況について

F A - 1 8 ホーネットと A V - 8 B ハリアーと F - 3 5 B では、岩国基地周辺での航空機騒音の状況にどのような違いがあるのか。

- 米側から提供された F - 3 5 B の騒音値と騒音度調査から得られた A V - 8 B ハリアーの騒音値を比較すると、離陸時は F - 3 5 B の方が約 9 デシベル大きくなるが、着陸時は F - 3 5 B の方が約 8 デシベル小さくなります。
- 上記条件で、F - 3 5 B と F A - 1 8 ホーネットの騒音を比較すると、離陸時は F - 3 5 B の方が約 3 デシベル大きくなるが、着陸時は F - 3 5 B の方が約 6 デシベル小さくなります。

オ 環境レビューについて

F - 3 5 B の国内初配備に関し、環境レビューを行わないのか。

- 米側からは、現時点において、F - 3 5 B の岩国基地への配備に伴う環境レビューは行っていないとの説明を受けています。
- なお、米国外の軍事施設における艦船、軍用機等の配備についての米政府の環境レビューは、大統領令等に基づき、一定の場合に実施することとされていますが、常に義務づけられている訳ではないと承知しています。
- 「一定の場合」は、「以前に環境への配慮について分析され、承認された他の行動とは実質的に異なる、若しくは大きくかけ離れた相当程度に重要な行動」と規定されています。

(3) 安全性

ア 安全性について①

F-35Bの安全性をどのように確認されているのか。

- F-35Bは、米政府がその安全性・信頼性を確認した上で、量産が開始されたものと承知しています。
- また、米側から、本機に搭乗するパイロットについては、米本国において、米海兵隊基準に基づき、訓練を十分に重ね、F-35Bを操縦するための資格を取得した後に岩国飛行場に配備される旨説明を受けています。
- いずれにせよ、F-35Bの飛行運用にあたっては、安全をはじめとする地域住民の生活に対して最大限の配慮がなされることが重要と考えています。

イ 安全性について②

運用開始から今までのF-35Bの事故の発生状況はどうか。

- 米海軍安全センターの公開情報によれば、米海兵隊のF-35Bについては、2012年1月の初納入以降、クラスAの事故は発生していないものと承知しています。
- 一方、クラスB及びクラスCの事故の発生状況については、公表されていないものと承知しています。

(参考)

クラスA：政府及び政府所有財産への被害総額が200万ドル以上、国防省所属航空機の損壊、あるいは、死亡又は全身不随に至る傷害もしくは職業に起因する病気等を引き起こした場合

クラスB：政府及び政府所有財産への被害総額が50万ドル以上200万ドル未満、一件の事故の結果として、負傷又は職業上の疾病が恒久的な部分的障害をもたらす場合、又は3名以上が入院した場合

クラスC：政府及び政府所有財産への被害総額が5万ドル以上50万ドル未満、あるいは、当日を除いて1日以上の欠勤をもたらす負傷又は疾病を引き起こした場合

【2014年6月に米国で発生したF-35Aの事故】

2015年6月に米空軍が公表した事故調査報告書においては、事故原因は、エンジン内部が破損して航空機の火災に至ったと結論づけられている。

- F-35に搭載されているエンジンについては、全ての型式（A型、B型及びC型）に同じF135型の派生エンジンが採用されていると承知しております。また、事故報告書において火災の原因とされているエンジンの不具合箇所は、F-35AとF-35Bの共通の部位であると承知しております。
- 当該不具合箇所については、米国防総省F-35ジョイントプログラムオフィスから、既に技術的改善策が講じられている旨説明を受けており、政府としては、本件不具合がF-35Bの安全性に影響を及ぼすとは考えておりません。

ウ 安全性について③

FA-18ホーネットやAV-8Bハリヤーと比較して、F-35Bの安全性は向上しているのか。

- 防衛省として、それぞれの機種ของ安全性について比較した詳細を承知している訳ではありませんが、F-35Bは、米政府がその安全性・信頼性を確認した上で、量産が開始されたものと承知しています。

エ 開発からの経緯について

F-35Bの開発から運用開始までの経緯を示すこと。

- F-35は、2001年から、米国を中心として9カ国（米国、英国、イタリア、オランダ、トルコ、豪州、カナダ、デンマーク及びノルウェー）により国際共同開発が行われている最新鋭の戦闘機であり、ステルス性能や各種電子機器の統合などの最新の技術を備えていることから、いわゆる「第五世代戦闘機」と呼ばれています。
- F-35Bについては、2008年に初飛行を行い、2015年7月に米海兵隊が初期運用能力を獲得した旨宣言し、アリゾナ州ユマ基地等において運用が開始されたものと承知しています。

【参考】初期運用能力

公認された特定の特性を有し、かつ適切に訓練され、装備され、支援された部隊によって要員を配置されあるいは操作される武器、装備品または装置を有効に使用しうる能力の最初の達成をいう。（軍事用語辞典）

(4) 大気・水質

ア 大気・水質への影響について①

排気による大気への影響はどうか。

- 今回の配備計画では、F-35Bが岩国飛行場へ16機配備されますが、FA-18ホーネットが12機及びAV-8Bハリヤーが8機、日本国外へ移駐するため、岩国飛行場に配備されている航空機の機数は、現在より4機減少することとなります。
- また、F-35Bは、機種更新の対象となるFA-18ホーネット及びAV-8Bハリヤーとほぼ同様の方法、場所における運用が見込まれています。

- このため、防衛省としては、今回のF-35Bの岩国飛行場への配備により、岩国飛行場周辺において、大気への影響に特段の変化が生じるとは考えていません。

イ 大気・水質への影響について②

約130人の増加に伴う排水による水質への影響はどうか。

- 岩国飛行場内の排水処理施設については、空母艦載機の移駐等に伴い、新たに整備していますが、これまでも、同飛行場からの排水は、水質の汚染や漁業への影響がないよう環境法令に基づき、適切に処理された上で排出しているところです。
- いずれにしても、岩国飛行場からの排水については、今後とも環境法令に基づき、適切に対応してまいります。

(5) 運用

ア 部隊交代のスケジュールについて

既存部隊との部隊交代のスケジュールはどうか。また、機種更新の対象となる既存部隊とF-35B部隊の併存期間はあるのか。

- 既存部隊との部隊交代のスケジュールについて、機種更新の対象となる各現行機種は、F-35Bの到着時期及び米軍の部隊交代計画を踏まえ、日本国外に移駐する予定ですが、具体的な時期につきましては、今後、米側から情報が得られ次第、御説明させていただきたいと考えています。
- 米側からは、機種更新の対象となるFA-18ホーネット及びAV-8Bハリアーは、F-35Bの配備時期及び米軍の部隊交代計画を踏まえ日本国外へ移駐するため、若干の併存期間が必要となる可能性がある旨説明を受けております。

- 併存期間の有無については、今後、米側に説明を求め、情報が得られ次第、御説明してまいりたいと考えています。
- また、米側からは、F-35B、FA-18ホーネット、AV-8Bハリアーの所属する各々の部隊は、運用上の所要のため、実際に岩国飛行場へ移動する日等が決定されるまでに、様々な調整が必要となるため、現時点において、具体的な日程を申し上げられない旨説明を受けています。

イ 訓練場所等について

F-35Bの標準的な飛行ルートや主な訓練場所はどうなるのか。

また、岩国基地において短距離離陸や垂直着陸の運用が行われるのか。

ウ 垂直離着陸パッドについて

F-35Bも岩国基地に設置されているハリアー用の垂直離着陸パッドを使用するのか。

- 米側からは、岩国飛行場におけるF-35Bの飛行経路は、機種更新の対象となるFA-18ホーネット及びAV-8Bハリアーが飛行している経路とほぼ同様の経路を飛行する旨説明を受けています。このため、現時点で新たな飛行経路を設定する計画はないと考えています。
- 訓練場所については、米側より、機種更新の対象となるFA-18ホーネット及びAV-8Bハリアーとほぼ同様の方法・場所における訓練が見込まれる旨説明を受けておりますが、その詳細については、米軍の運用に関わることであるため、承知しておりません。
- また、米側からは、F-35Bが岩国飛行場内のハリアーパッドにおいて、AV-8ハリアーと同様に垂直離着陸訓練を行う場合もある旨説明を受けています。

エ 施設整備について

F-35Bの岩国基地配備に伴い、新たな施設整備があるのか。ある場合はその施設の内容と完成時期はどのようになっているのか。

- 米側からは、今回のF-35B配備に関しては、岩国飛行場内にある既存の駐機場、格納庫等を使用する旨説明を受けており、防衛省としては、現時点で同飛行場に新たな施設整備を行う計画はありません。

オ 人員の移駐等について

F-35Bの配備に伴い、約460名の軍人及び家族が岩国飛行場へ移動し、一方で、現行機の日本国外への移駐に伴い、約330名が減少する予定との説明を受けたが、約130名が増加する理由は何か。

- 米側からは、現行機の部隊は米軍の部隊交代計画によりローテーションで岩国飛行場に配備されるため軍人の家族が帯同しないが、F-35Bの部隊は同飛行場に常駐するため軍人の家族が帯同することが要因である旨説明を受けています。

カ 空域調整について

F-35Bの岩国基地配備に伴い、訓練空域や岩国レーダー進入管制空域について、米軍、自衛隊及び民間航空機の間で何らかの調整が行われるのか。

- F-35Bは、機種更新の対象となるFA-18ホーネット及びAV-8Bハリヤーとほぼ同様の方法、場所における運用が見込まれているため、日米間で当該配備に伴う訓練空域等の調整は行っておりません。

キ 訓練移転等について

F-35Bの騒音軽減のため、他基地への訓練移転等の影響緩和措置が実施される計画はあるのか。

- 「再編実施のための日米ロードマップ（平成18年5月）」に基づき、二国間の相互運用性の向上と在日米軍飛行場周辺地域における訓練活動の影響を軽減するため、平成18年度以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原基地へ航空機の訓練移転及び平成23年10月からグアム等への航空機の訓練移転について、順次、実施しています。

- お尋ねのF-35Bの配備に伴う騒音軽減措置としてのこれらの基地への航空機の訓練移転については、今後、日米間で具体的に調整していく考えです。
- 防衛省としては、今後とも米側に対し、岩国飛行場周辺の騒音軽減が図れるよう一層の協力を求めるとともに、航空機の訓練移転を積み重ねるなど、可能な限り地元の負担軽減に努めていく所存です。

(6) その他

ア 空母艦載機移駐後の騒音予測について

今回のF-35Bへの機種更新に伴い厚木基地からの空母艦載機移駐後の騒音予測に影響は生じるのか。

- F-35Bの配備に伴い作成した航空機騒音予測コンターを踏まえると、空母艦載機移駐後の航空機騒音予測コンターに多少の影響はあると考えられるため、この影響を踏まえた艦載機移駐後の航空機騒音予測コンターの取扱いについては、適時適切に対応してまいります。

イ 今後の配備機数について

F-35Bの配備機数は、今後、増加する予定があるのか。

- これまでに米側から受けている説明によれば、①2017年1月に現行のFA-18ホーネット3部隊のうち1部隊12機をF-35B10機に更新し、②同8月に現行のAV-8Bハリアー1部隊8機をF-35B6機に更新する予定です。
- 米側からは、現時点において、これ以上の説明は受けておりません。

ウ 試験飛行について

F-35Bの試験飛行を実施する予定があるのか。

- F-35Bは、米国本土で運用されているものと承知しており、米軍の運用を考慮すると、岩国飛行場に配備される前に、国内で試験飛行を実施することは困難であると考えています。

(参考)

◇ F-35Bの諸元

機体	F-35B
全長	15.57 m
全高	4.57 m
全幅	10.67 m
翼面積	42.7 m ²
自重	14,651 kg
最大速度	M1.6
行動半径	833 km以上

【出典】 酣燈社「世界航空機年鑑 2014-2015」「世界航空機年鑑 2012-2013」、等

岩国市の米国ユマ基地視察について

《視察の目的》

- F-35Bの岩国飛行場への配備（機種変更）にあたり、実機が配備されている米国内のユマ基地に赴き、飛行状況や騒音等の状況を把握する。加えて、ユマ基地司令官他から運用状況等のブリーフィングを受け、市の方からも質問等を行い情報収集を図る。
- ユマ基地視察で得られた情報については配備に係る判断材料の一つとし、国の見解等で得られた情報と併せて総合的に判断していく。

《所感》（総括）

- 現地時間で10月24日（月）に米国アリゾナ州ユマ市に所在する米海兵隊ユマ基地を視察した。視察は約8時間、F-35Bの飛行状況の確認やマルチネス基地司令官他からユマ基地の概要やF-35Bの運用等についてブリーフィングを受けた。
- 米国内の米軍基地の視察は市長となって初めてであり、F-35Bの飛行状況及び騒音の把握が主たる目的ではあったが、米国内にある米軍基地を視察すること自体にも大きな意義があったと思う。
- 今回の視察で、所期の目的は達成できたものと考えており、限られた滞在時間ではあったが、実機の3パターンによる飛行、騒音の体感、関係者のブリーフィング、意見交換により詳細な情報が得られたものと思う。
- 現地で行う考えであったF-35Bの騒音測定については、残念ながらできなかったが、私自身が身を持って騒音を体感し、また、ユマ基地は、軍人・家族・軍属をあわせて14,900人、その他ローテーション部隊12,000人と規模の大きい基地であり、FA-18、EA-6B、AV-8B、その他の支援機や訓練のため飛来していたオスプレイなどがおり、頻繁に離着陸を繰り返していたことから、同じ場所で他の航空機と比較ができたことはよかったと考えている。
- ユマ基地でのブリーフィング、意見交換においては、対応されたユマ基地司令官をはじめ、関係の方々是我々に対して、運用状況等を丁寧に説明され、また、質問に対しても、大変真摯に対応していただいた。運用状況や安全性などについては、包み隠さず説明されたものと受け止めており、安全性に関しては、これまでの国の説明にはない具体的な情報もあった。

- ユマ市副市長との意見交換にも大きな意義があった。同じ米軍基地を有する米国の自治体から、基地との関わりや対策などについて伺う機会が得られたことは、大変参考になったものと考えている。

《F-35Bの飛行状況及び騒音状況について》

- 最初に4機編隊で離陸の後、空域を旋回し、通常の着陸、短距離着陸、垂直着陸と3パターンによる着陸が行われたが、体感的には、岩国基地に配備されているFA-18ホーネット等、普段から聞いている騒音とあまり差異はないように感じられた。
- また、着陸時の騒音については、国から示されたとおり、離陸時と比較し、かなり騒音は小さいものであった。
- 視察時、F-35BのほかにもFA-18やその訓練支援機などの飛行もあり、同じ場所で体感的な騒音の比較ができたが、F-35Bの方が騒音が大きいという感覚はなかった。

《ユマ基地でのブリーフィングの内容》

●大佐

- F-35B部隊の運用、安全性について説明があり、運用については、F-35Bの部隊は2つあるが、現状において、FA-18ホーネット及びAV-8Bハリアーと同様の訓練を行い、訓練空域においても違いはないということであった。
- 安全性についてはF-35BはAV-8Bハリアーなど、これまでの航空機と比較しても、開発段階から、大変いい記録を残している。そして、最新、最先端のソフトウェアの装備により、大きく安全性が向上した。パイロットにおいても、経験豊富で優秀であり、FA-18やAV-8Bのパイロットの中から優秀なものを選出しているとの説明があった。
- ユマ基地の概要について説明があり、ユマ基地においては、F-35B部隊を運用しているMAG-13のほか、様々な部隊があり、軍人4,500人、家族8,300人、軍属2,100人、計14,900人、その他ローテーション部隊など12,000人を抱えており、基地が大きな経済効果を生んでいる。また、ユマ基地周辺に広大な訓練空域を有しており、エリアを含め、必要な訓練を提供している。

- 自身の役割として、部隊の訓練がきちんとできること、その家族がきちんと生活できること、そして地元との関係をきちんと築くことである。
- 私の方から、岩国基地においても基地の運用についてのルールがあり、これを遵守する必要があるとの問いに対し、ユマ市においても運用時間などにおいてルールを設けており、運用時間外の飛行については、市に対して通報するなどの対応をしているということであった。

●中佐

- F-35Bの安全性についての説明があり、F-35Bはステルス性を有し、最先端の装備で、これまで必要な試験等を経て、現在に至っており、安全性については自信を持っている。
- 岩国基地へは325人が移ることになるが、そのうちパイロットは25人であり、そのパイロットたちは、数ヶ月、地上でシステムを学んだのち、カリキュラムに沿って約1か月、シミュレーターにより訓練を受けている。
- また、すべてのパイロットがFA-18やAV-8Bの他の機種を操縦していたものたちの中から審査を経て選ばれたものたちである。
- F-35Bは、離陸前にコンピューターにより機体の状態を確認することができ、不具合があれば、パイロットに知らせ、すぐにメンテナンスができるようになっており、また、二重、三重のバックアップ機能があり、何かあっても、どこかが機能する仕組みになっており、安全性には全く問題ない。
- ハリアーについては、垂直離着陸時にはパイロットが手動で安定性を保つようになっているが、F-35Bは、すべてがコンピューターによって制御されており、水平を安定的に保つようになっており、よりスムーズな着陸が可能との説明があった。

●パイロット

- 実際にF-35Bのパイロットから話を聞く機会があり、私の方から、パイロットに安全性について質問した。
- 「安全性については自信がある。FA-18を操縦した経験があるが、それと比較し、F-35Bは近代化された最新のテクノロジーを持ったジェットだと言える。安全性について、航空機の状態をコンピューターで把握することができ、不具合があれば、どういうメンテナンスが必要かわかるシステムになっている航空機である。」とのことであった。

《ユマ市のウィリアム・ビル・クラフト副市長との意見交換》

- 基地においてユマ市とユマ基地とのかかわりについて意見交換をした。ユマ市は、基地の存在を支持している。市民からの航空機の騒音についての苦情は一度も聞いたことはない。
- ユマ市は砂漠ではあるが、コロラド川の恩恵を受け、農業が盛んであり、レタスについては、アメリカの一大産地になっている。基地の存在は、航空機関連産業など、雇用を生み、農業に次いで、重要な産業である。基地とはウイン・ウインの関係を築いている。
- 私の方から、「岩国市として、航空機関連産業が入ってくることにより、基地との共存ができるので、ユマ市の取組みを参考にしていきたいと思う。」と申し上げた。
- 犯罪については、若い隊員が夜に飲んで騒ぐことはあるが、基地があることにより犯罪率が高まるということはない。
- ユマ基地には様々な航空機が配備されているが、具体的な数値はないが、F-35Bの騒音が他の航空機と比較して大きいということはなく、どの機種も同じぐらいであるとの説明があった。